学年だより

第5号 2021年4月28日(水)

自分を大切に 仲間を大切に

豊中市立第十五中学校 第2学年

コロナ禍の一年を経て……

未知の新型コロナウイルス感染症の出現が確認されて以降、私達の生活、社会、世界は一変しました。あたり前だった日常は様変わりし、感染の恐怖におびえながら、これまで経験したことのない不自由な行動制限を余儀なくされた一年……ワクチンや治療薬の開発は進んだものの、依然として感染拡大は続き、未だ収束の兆しが見えない中、三度目の緊急事態宣言が発令された今、みんなの心の声を紹介します。

コロナが流行して一年くらい経ったけれど、なかなか収束せず、ニュースなどでも「人々の気が緩んでいるのではないか」ということが報道されています。私自身もマスクをする生活に慣れて、気持ちが緩んでいる気がしました。けれど、世界中で医療従事者や政治家たちが頑張ってくれているので、私も不要不急の外出を控えて、それに従おうと思います。そして、早く世界からコロナが収束してほしいし、それまで我慢して終息したら、旅行に行きたいと思いました。

一年前と違って、今は分散登校じゃなくて全員がそろって登校できているけど、コロナのない世界ではこれはあたり前だったのと思います。クラブだって、今は一時間と短い中やっているけど、ほんとはもっとたくさんクラブをする時間があったのに残念です。今の自分は、早くコロナの無い世界に戻って、クラブもたくさんして、みんなとたくさんしゃべり合えるようになりたい、そんな気持ちでいっぱいです。

最初は、「大事にはならないだろう」「関係ない」と思っていたけど、行きたかった大会や試合がなくなって、すぐそこまで来ている実感、自分も対策しなければならぬという危機感を持ちました。今も蔓延していて、自分もかかるかもしれないという不安や、いろんな情報があって、何を信じればいいのか、どれが本当なのか分からない混乱があり、怖いです。

(本来コロナが敵であるのに、特定の対象を見える敵とみなす) 敵がすり替わる現象について、自分の行動に対して責任感がなく、自分勝手に自己中心的な人が感染を広げていたら、仕方ないこともあると思う。子どもに大人ほどの行動力はないので、大人にも納得してもらえ、感染や差別をなくすような動画を作り、対策をとるのが第一だと思う。国によって感染者数が違うのは、感染対策が国全体でしっかりできている国もあるということだから、効果のある対策をもっと取り入れたら良い方向に向かえると思う。

コロナはどんどん人を感染させて、普通の日常を送れなくする。もし自分が感染してしまったら、迷惑をかけてしまうので、しっかりマスクをつけて予防したい。それでも感染してしまったときは、部屋にこもるなどできることをしたい。友達が感染してしまったら、「大丈夫やで」と声をかけて励ましてあげることが心かげようと思った。

最近、前と比べてコロナ感染者数が増えてきているが、少し油断してしまっている部分もあるので、自分は大丈夫と思わず、もう一度気を引き締めて生活しようと思った。誰かがコロナにかかっても、「おかえり」と言えるようになりたいし、自分でもコロナにかからないように、手洗いなどしっかりできるようにしたい。そして、医療関係の人への感謝の気持ちも忘れずにいたい。

去年、コロナウイルスが一旦落ち着いて、そこからひどくなって、今年になって落ち着いて、また感染が流行っての繰り返しになるだろう…と僕は思います。だからこそ、いつも一人一人が意識して行動することが大切だと思います。あと、コロナの発祥地が中国だといって、「中国嫌い」などと無責任な発言をしている人を見て、毎回思うのが、そこでみんなが何も考えずに行動していること、つまり、中国のせいじゃなく、世界中のみんなが関わっていること、それを自覚して、責任のある行動をすべきだと思います。

こうやって勉強できている間にも、苦しんでいる人はいます。私達はこの状況に感謝しなければいけないと思います。私は当事者になったことがないので、気持ちを完璧に理解することはできませんが、私なりの言葉で、私だったらこうしてほしいという意見を書きます。「大丈夫？」と聞いてしまうと、「大丈夫だよ」としか答えられなくなってしまふから、「大丈夫だよ。大丈夫」と言って抱きしめてくれるのが、一番嬉しいと思います。

第四波が来て、収束も見えないので、今まで以上に気をつけないとと思う。でも、全国の(特に若い高校生、大学生)人は、この状態に慣れてしまって、自粛要請が出て、普通に出歩いているからこわい。十五中でもいつ感染が起ころうとおかしくないし、衛生面をしっかりして対策していきたい。もし、コロナに感染してしまって、戻ってきたときは、何も言わず、前と同じように接してほしい。一番辛いのは本人だと思うから。

私は命のありがたみを知った。こわい気持ちはあるけれど、人の支えを大事にしていくことをこれからの未来に生かしていきたい。

私達ができること「手洗い」「咳エチケット」「体調不良時は休む」を地道に、それぞれが真剣に考え、行動を変えていくことで必ず光は見えてくるはず。思いやり、支え合い、感謝…こんなときだからこそ人との心のつながりを大切に、この局面を乗り越えましょう。